

赤ちゃんが泣くのはどういう時？

赤ちゃんは、お腹が空けばオッパイを求めて泣きますが、本を読んで欲しいと泣く赤ちゃんはいません。そういう仕組みになっているのです。読書の楽しみを教えることは、一に大人の責任であると思います。

【児童文学者百々佑利子（愛川町教育講演会より）】

本を選ぶ時どのようなことに気をつけたら？

まずは、自分が感動し好きになった本を選ぶのは言うまでもないことです。しかし、ややもするとひとりよがりの恣意的なものに陥りかねないとも限りません。特に最近色彩の鮮やかなきれいな本が出回っている傾向にあるため、つい惑わされてしまいがちになります。

では本を選ぶ時どのようなことに気をつけたらよいのでしょうか。

東京子ども図書館理事長の松岡享子さんは、その著書の中で「絵本のよしあしを見きわめる目を養うために満25歳以上の絵本を読みましょう。《略》優れた絵本というのは、より長く生命を保ち続けてきた絵本、より多くの子どもたちに愛されてきた絵本ということになります」（「えほんのせかいこどものせかい」）と書かれています。初版から25年経っても読み継がれているものは優れた絵本ということになりましょう。

また、本には、奥付に発行年月日と並んで「第〇刷」と印刷されています。25年経っていなくとも、この数字が多ければ、それだけ多くの読者に親しまれ愛されている証拠で、児童書に限ってのことですが、優れた本といえます。

【愛川町子どもの読書を推進する会】

「読み聞かせ」で大事にしておきたいことは？

自身のお子さんを膝の上ののせてまた夜寝るときに枕元で、読み聞かせをするととても良い結果を生むということはよく知られているところです。

また、本町のように読書ボランティアによる公共の場での読み聞かせは、子どもの読書経験を豊かにする動機付けとして高く評価されています。

読み聞かせに技術など要りません。大事なのは心をこめて読んであげることです。ただ読み聞かせの主人公は、聞き手のほうだということを忘れてはなりません。聞き手に読み手の存在を意識させないようにしましょう。読み聞かせの途中で、「すごいね」「きれいだね」など子どもの反応を確認するような行為は禁物です。子どもがせっかく絵本の世界に浸っている集中力を邪魔してしまうからです。

また、悲しい場面で読み手が悲しんでしまうと、聞き手は悲しむ感情がそがれてしまいます。淡々と読み進めることも大事な留意点になるでしょう。

【愛川町子どもの読書を推進する会】